

平成 30 年度大気中のダイオキシン類の調査結果について

1 採取日

平成 31 年 2 月 8 日から平成 31 年 2 月 15 日までの連続 7 日間

2 採取地点

- ・ 亀沢のぞみの家
- ・ すみだ生涯学習センター別館

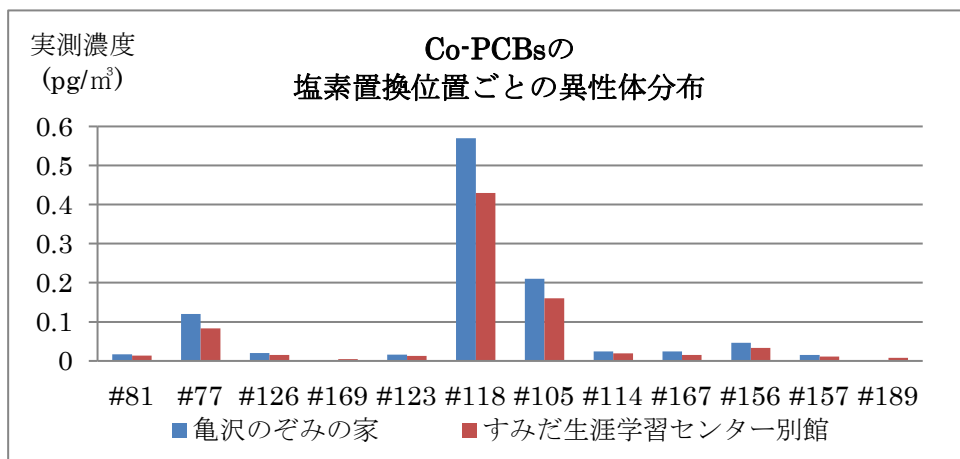
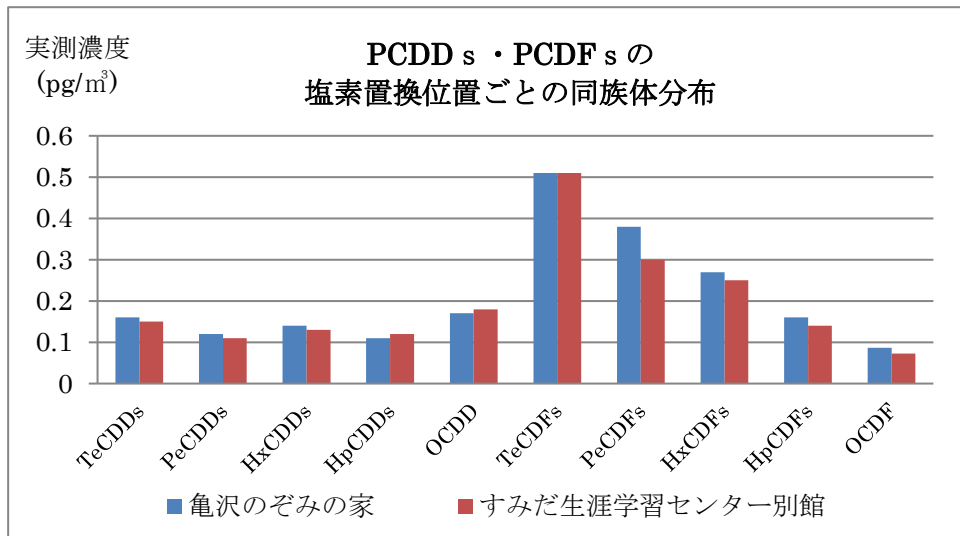
3 測定結果

(1) ダイオキシン類毒性等量

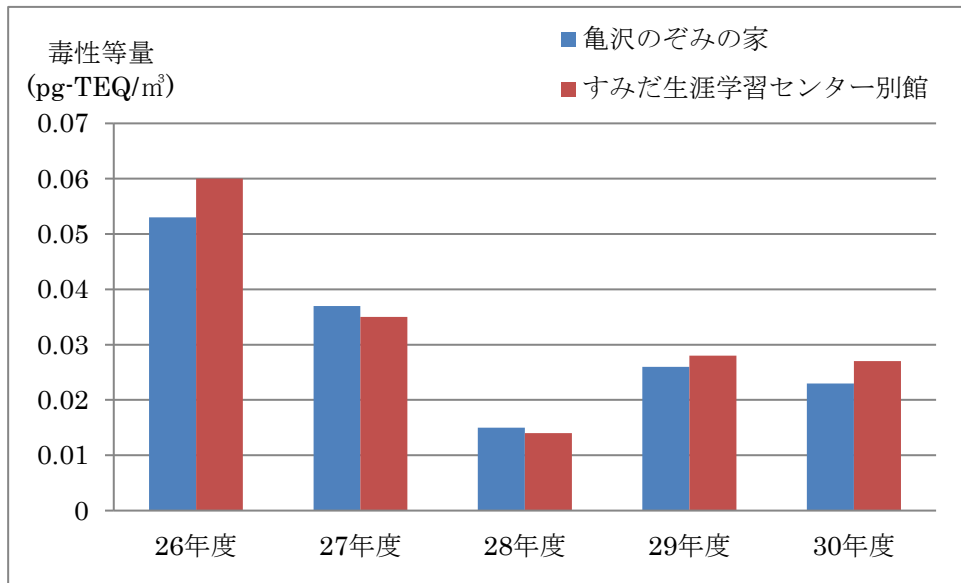
採取地点	ダイオキシン類毒性等量
亀沢のぞみの家	0.023 pg-TEQ/m <sup>3</sup>
すみだ生涯学習センター別館	0.027 pg-TEQ/m <sup>3</sup>
環境基準 (年平均値)	0.6 pg-TEQ/m <sup>3</sup> 以下

(参考) 平成 29 年度都内調査結果平均値 : 0.018 pg-TEQ/m<sup>3</sup>

(2) 組成



#### 4 経年変化



#### 5 まとめ

ダイオキシン類毒性等量は、環境基準を大きく下回っていた。

ダイオキシン類の組成をみると2地点に共通して、PCDDs・PCDFsではすべての同族体が検出され、TeCDFsの濃度が高かった。Co-PCBでは#118及び#105の濃度が高かった。

これらの結果と参考資料（「ダイオキシン類の組成分布を用いた発生源の推定」）を比較すると、焼却系発生源におけるPCDDs・PCDFs同族体組成分布と類似した傾向であった。